

GIS技術の進歩にワクワク 地図好きのエンジニアが担うロケーションビジネス

日立ソリューションズ
社会システム第1事業部
空間情報ソリューション本部
ロケーションビジネス部
グループマネージャ

位置情報の匠

賀川 義昭



空間情報ソリューション本部に ロケーションビジネス部を設置

地理空間情報(GIS)の高度利用が進んでいる。災害復旧・防災など公的分野での活用だけでなく、業種、分野を問わずビジネス利用も拡大している。

日立ソリューションズは、これまでも衛星画像の提供やエンタープライズ型地理情報システム「GeoMation」の開発などを通してGISビジネスに深くコミットしてきた。取り組みを強化するため、2013年10月には空間情報ソリューション本部に、ロケーションビジネス部が新設された。

そこから生まれた新たなサービスが、地図上で船舶の動向を可視化する「船舶位置情報サービス」(2014年6月から提供)だ。世界中で航行する船舶のリアルタイムの位置情報を地図上に表示し、位置の検索や航行の軌跡表示により船舶の動向を可視化することができる。Webブラウザから簡単にアクセスでき、特定の船舶を検索して絞り込み表示することもできる。

いま国際貿易物流の9割以上を海上輸送が担い、世界中の海を毎日約10万隻が運航している。船舶の契約料や燃料コストはたえず変動するため、造船、海運、荷主などの海事関連企業にとっては、最適な船舶を選び、運航計画を立てることが経営の重要課題になっている。船舶運航情報を地図上で可視化できれば、こ

うした計画を立てやすくなり、またコスト管理上も好都合だ。

「一定以上の大きさの船舶は自船の位置や針路、速力、航行状態の情報を自動的に発信する船舶自動識別装置の搭載が義務づけられています。AIS (Automatic Identification System) と呼ばれるものですが、このデータを高度活用できないかと考え、データを提供する米国の調査会社IHSマリタイムと提携し、このサービスを開発しました。」

と言うのは、ロケーションビジネス部の賀川義昭グループマネージャだ。

海運、物流、保険分野で 求められる船舶位置情報

船舶位置情報サービスに関心を示しているのは、海運はもちろん、物流、保険など多岐にわたる。船舶の動きを知ることは世界中の物流を知ることになる。

一方、海運会社にとっては、他社の船舶の位置情報を知ることが、燃料コストの大幅な低減につながる。

“鼻の利く”メンバーが、 地理情報で顧客ビジネスを変える

賀川は東京大学の学生時代、GISの第一人者・柴崎亮介教授(同大・空間情報科学研究センター長)の下で研究をしていた。

「もとは土木工学専攻。測量学の授業でGISの考え方に初めて触れ、興味を持ちました。地図情報とITを結びつけて、世の中を便利にする仕事をしたいと思うようになりました」(賀川)。

就職を決めたのも、衛星画像をビジネスにしているからという。

位置情報を活用したロケーションビジネスは、今後、ソーシャルデータを組み合わせたり、ビッグデータとして分析・活用することで、新たな展開が期待されている。

アメリカの最先端の空間情報技術を持つ企業の動向を調査している賀川は、GIS技術のロードマップを描きながら、日立ソリューションズならではの独自のビジネス構築を、最前線で担っている。



◀「船舶位置情報サービス」の画面例